

《課題名》

ソマトスタチン受容体シンチグラフィの臨床的有用性についての検討

《研究対象者》

2016年1月より2022年12月の間で滋賀医科大学附属病院で消化器内科または消化器外科を受診し、神経内分泌生腫瘍の疑い、またはその経過観察目的でソマトスタチン受容体シンチグラフィの検査を受けられた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

研究課題名：ソマトスタチン受容体シンチグラフィの臨床的有用性についての検討

研究期間：許可日（2018年12月17日）～2022年12月28日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 《所属》放射線科 《氏名》瀬古 安由美

（2）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

【背景】¹¹¹In-Pentatreotideを用いたソマトスタチン受容体シンチグラフィ（SRS）は、神経内分泌生腫瘍（NET）の診断に有用とされています。NETに特異的な診断製剤として現時点では唯一のものであるが、NETの分化度により、SRSの集積の程度が異なるといわれています。

【目的】当院で施行したSRSに関して、SRS画像所見と臨床経過や病理所見、他の画像所見との対比検討を行うことにより検査の感度・臨床的有用性を評価することです。

【意義】SRSの、神経内分泌生腫瘍（NET）の検出感度を把握することで、今後のSRSの読影やSRSの検査適応の決定に有用であると考えます。

（3）研究の方法について

《研究の方法》

当院で施行したソマトスタチン受容体シンチグラフィ（SRS）に関して、SRS画像所見と臨床経過（治療内容と再発の有無）や病理組織所見、CTまたはMRIでの腫瘍のサイズとの対比検討を行います。

¹¹¹In-Pentatreotideを投与後、4時間後・24時間後に撮影されたSRSを後方視的に確認して、異常集積の有無を評価します。SRS施行症例の切除標本やCTまたはMRI画像による病変サイズとの比較検討を行って、異常集積と病変のサイズや病理組織との関連を検討

します。既に手術が施行されている方には、再発病変の有無、再発があればその病変のサイズとの関連を検討します。

(4) 個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用を停止することができます。停止を求められる場合には、下記(8)にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 《窓口所属》放射線医学講座 《対応者氏名》瀬古 安由美

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2536 o r 2288

メールアドレス： ayumis@belle.shiga-med.ac.jp